



## 著者プロフィール

仁平 勝 (にひら・まさる)

昭和24年 東京生まれ

昭和48年 中央大学法学部卒業

現在 文芸評論家、俳人（「魚座」所属）

〈主な著書〉

昭和55年 句集『花盗人』（私家版）

昭和61年 『詩的ナショナリズム』（富岡書店）

平成元年 『虚子の時代』（弘栄堂書店）

『江川卓の抵抗と挑戦』（北宋社）

平成3年 『秋の暮』（沖積舎）

平成5年 句集『東京物語』（弘栄堂書店）

平成8年 『俳句が文学になるとき』（五柳書院）——サン  
トリー学芸賞受賞

平成12年 『俳句をつくろう』（講談社現代新書）

平成14年 『日本の四季、句の一句』（坪内稔典・細谷亮太  
との共著・講談社）

『俳句のモダン』（五柳書院）——山本健吉文学  
賞（評論部門）受賞

平成15年 『加藤郁平論』（沖積舎）

〈評論『俳句の射程』より転載〉

（2006年10月時点）